

文学作品を取り上げている中上級日本語教科書についての現状調査

金山 泰子・二宮 理佳

1. はじめに

本研究の目的は、文学作品を取り上げている中上級レベルの日本語教科書の現状を調べることである。具体的には、文学作品が教材として取り上げられている教科書がどの程度存在するのか、どのような作品が取り上げられているのか、どのような意図・目的で文学作品が取り上げられているのか、どのようなタスク・質問などが設定されているのかを調査する。

近年、外国人日本語学習者のための学習環境は整いつつあり、教材、参考書類も数多く出版されている。しかし文学作品を主たる教材とした読解教科書は少ない。文学作品を教材とした実践報告や、読解教材としての文学作品の有効性を指摘する先行研究は散見されるものの（岡本 1998・1999、半田 2000、池田 2006・2008）、読解教材として文学作品を扱うことについての分析や実証研究は僅少である。

一方、中上級レベルの読解教育における課題の一つとして、クリティカル・リーディング能力育成の必要性が指摘されている。二通（2005）は留学生教育の課題として、テキストに書かれている内容を確認していくだけの受動的な読み方ではなく、自らの問題意識にもとづいて主体的に読んでいく読み方を養成することが必要であると指摘している。

このような読解力を育成するために、どのような教材が必要なのか。どのような設問やタスクが適切なのか。文学作品はこうした読解力育成に適切な読解教材となり得るのか。本稿では、以上のような課題を踏まえ、既存の教科書の現状を調査する。なお、本調査の目的は教科書の評価を行うことではなく、現状の教科書の傾向を把握することである。調査結果を今後の課題について考える足がかりとしたい。

2. 先行研究

文学作品を教材とした授業実践報告としては、岡本（1998、1999）、半田（2000）、池田（2006、2008）などがある。岡本（1999）は、小説は「上級日本語学習項目の宝庫」（p.24）であり、「話し言葉や書き言葉、男女間だけでなく、相手や場に応じた言葉遣いをはじめ、レトリック（文章の表現効果を高める技術）としての文字表記の使い分け、副詞、オノマトペ、複合動詞、ことわざや慣用句の引用、さらには日本文化に基づいた情緒的表現や比喩表現、婉曲語法などが、具体的な文脈の中で効果的に使われている」（p.24）として、その有効性を指摘している。池田（2006）は、文学作品は日本語学習者の知的好奇心を満たし、読解力を高めるために重要な役割を果たすと述べている。さらに池田（2005）は、日本語教育と外国語教育との比較という観点から、「外国語で読むという行為は、母語で読む以上に作品との積極的な関わりを要求する」（p.28）のものであり、「育ってきた環境や受けてきた教育が異なる読者が一作品をどのように読むか、それぞれの読みを共有し、

分かち合うことで、他者や自己を知ることにつながる」(p.28)として、日本語教育に文学教材を取り入れる意義に言及している。

しかしながら池田(2005、2006)は、日本語教育において文学が教材として敬遠されることについても言及しており、その理由として、専門書を読むスキルを養うなどの実用本位の教育が主流であり、虚構を扱う文学作品は非効率的であるとされること、国語教育と異なり日本語教育の授業時間数は極端に少ないこと、文学作品の持つ多義性や曖昧さから教材化が困難なこと、新聞記事や論旨の明解な社説等が教材として扱いやすいこと、作品を選択するための指針がなく、有効な指導案・具体的な教材化案等指導に関する参考資料が少ないことなどを挙げている。

3. 調査の目的と方法

3.1. 調査の目的

本調査の目的は、文学作品をとりあげている既存の中上級教科書の現状を調べることである。具体的には以下の2点について調査する。

1. 既存の中上級教科書において文学作品を扱っている教科書はどれぐらい存在するのか。また、文学作品を扱っている中上級教科書では、総テキスト数に対してどれぐらいの割合でどのような文学作品が取り上げられているのか。
2. 文学作品を扱っている中上級教科書は、どのような構成、作成意図で編纂されているのか。設問の特徴はどのようなものか。

3.2. 調査の対象と方法

本調査では、中級後半レベル以上のテキストを対象とした。選定においては凡人社発行の日本語教材リスト(No.44 2015 - 2016)に掲載されている中級後半レベル以上の総合教科書、および読解教科書を参考にした。次に、それらの教科書において文学作品がどれぐらいの割合で扱われているかを調査した。さらに、その中で文学作品が比較的多く取り上げられている教科書を対象に、詳しく分析を行った。具体的には、教科書の構成、作成意図、読解に関する設問の特徴について調べた。

なお、本調査の対象とする文学作品は小説に限定した。ある程度のまとまりと構成、テーマ、ストーリー性のある読み物の読解力を養成するための教材ということを意識したため、文語文法の知識が必要とされる古典文や文字数が限定される韻文は除外した。また、随筆も文学作品の一つと考えられるが、題材によって文学性の高いもの、評論に近いもの、または日記風のものなど様々であり、どのような随筆を「文学作品」と定義するかが曖昧であるため除外した。

4. 調査結果

4.1. 文学作品を扱っている中上級学習者対象教科書

表1、2は、凡人社発行の日本語教材リスト(No.44 2015 - 2016)を参考に作成し

た中上級以上の総合教科書および読解教科書の一覧である。そのうち文学作品を取り上げているものには一番右の欄に○を付記した。

表 1 中上級レベル以上対象の総合教科書

	教科書名	編/著者	発行元	発行年	文学
1	テーマ別上級で学ぶ日本語(改訂版)	松田浩志 他	研究社	2006～2008	
2	生きた素材で学ぶ新・中級からの日本語	鎌田修、ボイクマン聡子、富山佳子、山本真知子	ジャパンタイムズ	2012	○
3	日本語中級 J501 中級から上級へ	土岐哲、関正昭、平高史也、新内康子、石沢弘子	スリーエーネットワーク	1999～2001	
4	改訂版 トピックによる日本語総合演習 上級 テーマ探しから発表へ	専修大学国際交流センター監修 安藤節子、佐々木薫、赤木浩文、坂本まり子、田口典子	スリーエーネットワーク	2010	
5	学ぼう! にほんご 中上級テキスト	日本語教育教材開発委員会編	専門教育出版	2009	
6	学ぼう! にほんご 上級テキスト	日本語教育教材開発委員会編	専門教育出版	2010	
7	上級日本語	東京外国語大学留学生日本語教育センター編著	凡人社	1998	○
8	日本語 5 つのとびら 中上級編	立命館アジア太平洋大学編著	凡人社	2007～2010	
9	中・上級日本語教科書 日本への招待	東京大学 AIKOM 日本語プログラム 近藤安月子・丸山千歌	東京大学出版会	2001	○
10	ニューアプローチ	小柳昇	語文研究社	2002	
11	文化へのまなざし	東京大学 AIKOM 日本語プログラム 近藤安月子・丸山千歌	東京大学出版会	2005	

表 2 中上級レベル以上対象の読解教科書

	教科書名	編/著者	発行元	発行年	文学
1	上級学習者のための日本語読解ワークブック	目黒真実著	アルク	2010	
2	中上級学習者のための日本語読解ワークブック	目黒真実著	アルク	2009	
3	中上級学習者向け日本語教材) 日本文化を読む	(公財) 京都日本語教育センター著	アルク	2012	○
4	(上級学習者向け日本語教材) 日本文化を読む	(公財) 京都日本語教育センター著	アルク	2008	○
5	日本語思想におけるユートピア	高橋武智著、砂川有里子、砂川裕一、アンドレイペケシュ、福西敏宏編	くろしお出版	2014	
6	日本語の映画史 10 のテーマ	平野共余子著 砂川有里子、砂川裕一、アンドレイペケシュ、福西敏宏編	くろしお出版	2014	
7	読む力 中上級	奥田純子監修、武田悦子、丸山友子、久次優子、八塚祥江、尾上正紀、矢田まり子編著	くろしお出版	2011	

8	日本語を楽しく読む本・中上級	小出慶著	産業能率大学出版部	1993	○
9	留学生のための現代日本語読解	岩佐靖夫、片桐忠尚、桜井隆、横道千秋著	Jリサーチ出版	2006	○
10	中・上級者のための速読の日本語(第2版)	岡まゆみ著	ジャパンタイムズ	2013	○
11	日本語いろいろ2	杉田恵美子、杉浦啓子、木戸貴美、田辺和子、ピロッタ丸山淳著 田中望監修	凡人社	1991	
12	留学生のための読解トレーニング	石黒圭編著 熊田道子、筒井千絵、Olga Pokrovska, 山田裕美子著	凡人社	2011	○
13	日本語学習者のための日本文学 中級からの挑戦 *	柴田節枝・横田淑子・森岡明美	私費出版	2011	○

*本教科書は凡人社リストには収録されていないが文学に特化した教科書であるため本調査の分析対象とした。

既存の中上級レベル以上の教科書のうち、総合教科書では11冊中3冊、読解教科書では13冊中7冊が文学作品を扱っている。表3は収録されている作品の一覧である。「出典」については、教科書に取り上げられている作品が収録されている全集、文庫などの書名と出版社である。「初出」はその作品が初めて出版された年である。どの時代に書かれた作品かを明らかにするために初出年を調べて記した。「備考」欄には、テキストとして取り上げられているのが作品の抜粋か或いは全編か、などの情報を記した。

表3 文学作品を扱っている教科書に収録されている作品

①「日本文化を読む(中上級)」

	タイトル	著者	出典	初出	備考
1	大根を半分	沢木耕太郎	『彼らの流儀』朝日新聞社	1991	全編
2	天井裏	村上春樹	『夜のくもごる』新潮社	1998	全編
3	雨傘	川端康成	『掌の小説』新潮文庫	1971	全編

②「日本文化を読む(上級)」

	タイトル	著者	出典	初出	備考
1	鞆	安部公房	『笑う月』新潮文庫	1976	全編
2	わすれ傘	吉田道子	『京都の童話』愛蔵版別ふるさと童話館 日本児童文学者協会編 リブリオ出版	1999	全編
3	鼻	芥川龍之介	『芥川竜之介小説集一』岩波書店	1916	全編
4	檸檬	梶井基次郎	『檸檬』新潮文庫	1967	全編

③「上級日本語」

	タイトル	著者	出典	初出	備考
1	代筆	赤川次郎	『朝日新聞日曜版 1979.8.21』	1979	全編

2	にぎやかな未来	筒井康隆	『高等学校新国語Ⅱ』大修館 1989	1972	全編
3	めずらしい人	川端康成	『掌の小説』新潮文庫 1989	1964	全編
4	仲間	三島由紀夫	『殉教』新潮文庫 1983	1966	全編

④ 「日本語学習者のための日本文学 中級からの挑戦」

	タイトル	著者	出典*	初出	備考
1	坊ちゃん	夏目漱石	青空文庫 (Online) 角川文庫 集英社 岩波文庫 講談社 青い鳥文庫	1906	抜粋
2	キッチン	吉本ばなな	角川文庫 福武文庫	1988	—**
3	高瀬舟	森鷗外	集英社文庫 青空文庫 (Online)	1916	抜粋
4	塩狩峠	三浦綾子	新潮文庫	1968	—
5	伊豆の踊り子	川端康成	新潮文庫	1926	—
6	潮騒	三島由紀夫	新潮文庫	1954	—
7	蜘蛛の糸	芥川龍之介	角川文庫	1918	全編
8	少年H	妹尾河童	講談社	1997	—
9	なめとこ山の熊	宮沢賢治	青空文庫 (Online)	1934	抜粋
10	肩の上の秘書	星新一	『ポッコちゃん』新潮文庫	1961	—
11	A Day in the Life	村上春樹	『象工場のハッピーエンド』新潮文庫	1983	—

* 出典元は特定しておらず、参考図書として記載されている。

** 「—」は著作権の関係で教科書に作品を提供することができないと書かれていたものである。

⑤ 「留学生のための現代文読解」

	タイトル	著者	出典	初出	備考
1	あの日にドライブ	萩原浩	光文社	2005	抜粋
2	ノルウェイの森	村上春樹	講談社	1987	抜粋
3	ノルウェイの森	村上春樹	講談社	1987	抜粋
4	セイジ	辻内智貴	筑摩書房	2002	抜粋
5	博士の愛した数式	小川洋子	新潮社	2003	抜粋

⑥ 「日本への招待」

	タイトル	著者	出典	初出	備考
1	マリオネット・デイズ	篠原まり	ポプラ社 2006	2006	抜粋
2	銀色の登り道	阿刀田高	『食べられた男』講談社文庫 1982	1979	全編

⑦ 「生きた素材で学ぶ中級から上級への日本語」

	タイトル	著者	出典	初出	備考
1	白い紙／サラム	シリン・ネザマフィ	文芸春秋	2006	抜粋*

* テキスト中で資料として一部が紹介されているが、メインテキストではない。

⑧ 「中上級者のための速読の日本語」

	タイトル	著者	出典	初出	備考
1	誘拐	星新一	『ボッコちゃん』新潮文庫	1961	全編
2	ボッコちゃん	星新一	『ボッコちゃん』新潮文庫	1961	全編
3	愛用の時計	星新一	『ボッコちゃん』新潮文庫	1963	全編
4	不眠症	星新一	『ボッコちゃん』新潮文庫	1964	全編

⑨ 「読解トレーニング」

	タイトル	著者	収録・出版社	初出	備考
1	愛の鍵	星新一	『ようこそ地球さん』新潮文庫	1961	抜粋

⑩ 「日本語を楽しく読む本・中上級」

	タイトル	著者	収録・出版社	初出	備考
1	殺し屋ですよ	星新一	『ボッコちゃん』新潮社	1961	全編

以上、文学作品を扱っている中上級学習者対象の教科書を整理した。以下では上記10冊の教科書について、総テキスト数に対する文学作品の割合、さらに構成、作成意図、設問の特徴、取り上げられている作品について述べる。なお以下の文中および表中では、それぞれの教科書を、①「文化中上級」②「文化上級」③「上級」④「挑戦」⑤「現代」⑥「招待」⑦「素材」⑧「速読」⑨「トレーニング」⑩「楽しく」と略記する。

4.2. 総テキスト数に対する文学作品（小説）の割合

表4は、上記教科書について総テキスト数と文学作品の数、および割合を調査した結果を示したものである。

表4 総テキスト数と文学作品の数および割合

	教科書名	総テキスト数	小説以外	小説	古典・詩歌	文学の割合	小説の割合
1	文化中上級	20	15	3	2	25%	15%
2	文化上級	18	13	4	1	27.8%	22.2%
3	上級	20	0	4	4	40%	20%
4	挑戦	17	0	12	5	100%	70.6%
5	現代	12	7	5	0	41.7%	41.7%
6	招待	38	36	2	0	5.3%	5.3%
7	素材	20	0	—	0	—	—
8	速読	—	—	4	0	—	—
9	トレーニング	53	0	1	0	1.9%	1.9%
10	楽しく	13	0	1	0	7.7%	7.7%

文学作品については、小説以外（エッセイ、評論、新聞記事など）、小説、古典・詩歌の3種に分類した。「小説」と「古典・詩歌」を別項目とした理由は、3.2. で述べたように、

散文と韻文、古典と現代文とでは読解の目的、作業などが異なると考えられるためである。

なお、表中、「文学の割合」としたものは、総テキスト数に対する小説および古典・詩歌の数の割合を示し、「小説の割合」としたものは総テキスト数に対する小説のみの数の割合を示している。

「素材」については、テキスト中で小説の1部が紹介されている形となっているため表には数を示さず「―」とした。また「速読」の総テキスト数については、速読トレーニングの材料として新聞記事、パンフレット、時刻表など多岐にわたる資料が提供されており、数えることが困難であったため「―」としてある。

10冊の教科書は、その内容、及び記載されている目的の点から次の4つのグループに分類することができる。文化紹介を目的とした教科書（「文化中上級」「文化上級」「文化」「挑戦」「現代」）、社会の理解・分析を目的とした教科書（「招待」「素材」）、読解ストラテジーの要請を目的とした教科書（「速読」「ストラテジー」）、読み物のおもしろさを味わうことを目的とした教科書（「楽しく」）である。次項ではそれぞれの教科書について、構成、作成意図、設問の特徴を述べる。

4.3. 文学作品を扱っている中上級教科書の分析

以下では上記10冊の教科書について、構成、作成意図、設問の特徴について整理した。なお設問については、文学作品を扱っている部分の設問を対象とした。

4.3.1. 文化紹介を目的とした教科書

① 「日本文化を読む（中上級）」

- 1) 構成：20章からなる。本文の下部余白に本文に関する設問および重要表現が記載されている。本文の最後に「まとめ」として全体理解を確認する設問が設けられている。各課の最後に、出典と筆者紹介が数行ある。語彙表と設問の解答例が巻末に付いている。
- 2) 作成意図：テキストは文学・評論・自然科学などの多分野から、どれも著名なものを選び、また学習者の日本語力で読める上質の日本語を提供したと述べられている。
- 3) 設問の特徴：テキストの理解、筆者の意図を確認するための明示的な事柄の読み取りを問う設問が設けられている。「まとめ」にテキストの主題に関わる質問が数問ある。

② 「日本文化を読む（上級）」

- 1) 構成：18章からなる。本文の下部余白に本文に関する設問、および注が記載されている。本文の後に「まとめ」として全体理解を確認する設問が設けられている。最後に、数行、出典と筆者紹介がある。語彙表と設問の解答例が巻末に付いている。
- 2) 作成意図：テキストを通し、この教科書が編纂された地、京都、また関西の文化を伝えたいと述べられている。「文化を目指した」上級教科書として社会評論、科学評論、文学・評論・自然科学などの多分野から選ばれ、京都・関西からの発信を意識している。
- 3) 設問の特徴：テキストの理解を確認するための明示的な事柄の読み取りや、筆者の意図を考えさせる設問がある。「まとめ」にテキストの主題に関わる質問が1,2問ある。

③ 「上級日本語」

- 1) 構成：二部構成になっている。第一部は、日本の大学に進学するための1年間の予備教育を受ける学生を対象に編まれている。第二部は、補助教材として文学作品の短編が4編提供されている。その他に、和歌、俳句、詩なども紹介されており、時間に余裕があるクラスが自由に扱えるようになっている。なお、作者についての略歴が数行で付記されている。
- 2) 作成意図：進学後日本語による学習活動を可能にする力の養成が目標である。第2部は、古典から現代までの代表的な詩歌、および現代の代表的作家の作品に触れられるように文学作品を提供している。
- 3) 設問の特徴：第1部は内容質問があるが、第2部については設問は用意されていない。

④ 「日本語学習者のための日本文学 中級からの挑戦」

- 1) 構成：7章構成で、各章に「家族」「生と死」「恋愛と結婚」「善と悪」「戦争と平和」「自然と環境」「個人と社会」というテーマが決められている。まず作者についての紹介文と、「読む前に」の設問がある。次に、指定された段落（または章）を読みながら内容を確認していく質問が設けられている。最後に「読んだ後で」と、「ディスカッショントピック」が設置されている。また語彙リストも提供されている。11作品中『蜘蛛の糸』1作のみが全編を読ませる形式になっており、その他は抜粋、または読む章が指定されている。
- 2) 作成意図：文学作品を材料にして、歴史的・社会的な視点で読み解くという作成意図が述べられている。一部のみでは作品を味わえないものは、母国語で全編を読ませるのが望ましいとしている。著作権の関係で、テキストに載せず別途購入させるものもある。
- 3) 設問の特徴：「読む前に」では、筆者の他の作品を読んだ経験の有無を問う質問や、作者や作品の背景について調べさせたり（既存の知識と関連付ける）、章のテーマと関連づけて考えさせたりする質問（例：人が死を選ぶ理由）が設けられている。学習者個々の知識・経験と関連付けて考えさせる質問になっている。「読みましょう」では、内容理解、明示的な事柄の読み取りを行い、言語面の知識（文法や語の意味）を問う設問はない。テキストからの推論や視点を問う質問も入っている。「読んだ後で」は、文体・表現の効果について問う設問や、社会的なコンテキストに結びつけて読ませるような設問、登場人物の心情の変化を追わせる設問が用意されている。ディスカッショントピックには、学習者の文化とテキストに表出する文化を比較、時代（例：明治時代と現代）による価値観の比較など、比較の視点をとりにれたものや、自国の文化を再認識させるようなトピックが設定されている。また普遍的なテーマについての質問（例：「人間は何のために生き、何のために命をかけるのか」）も設けられている。

⑤ 「留学生のための現代文読解」

- 1) 構成：12課からなる。本文の前に「ことば」で、語彙の意味と読み方が紹介されている。本文の後に慣用句や文法、語彙の確認問題、文法を使った短文作成の問題がある。

- 2) 作成意図：新しい日本の小説を読むことで現代日本社会に触れるということ、また本テキストで抜粋を読むことにより、授業外で自立的にその作品全体を読むきっかけにしたいという意図が述べられている。
- 3) 設問の特徴：読解に関する質問は設けられていない。

4.3.2. 社会の理解・分析を目的とした教科書

⑥ 「日本への招待」

- 1) 構成：5章構成で各章に「女性の生き方」「子供と教育」「若者の完成」「仕事への意識」「日本の外国人」というテーマが設定されている。各章は5つから6つの資料（新聞記事、白書、書籍など）で構成されている。ほぼ全章にグラフ・表などが盛り込まれている。テキストと予習シート・語彙・文型の2冊からなる。テキストは「知っていることを話そう」で既有知識・経験にもとづいて話させたり考えさせたりする。「ここから考えよう」で全体像を提示している。予習シートは、各資料について文型、内容理解のための予習シート、語彙リストからなる。
- 2) 作成意図：日本語クラスと同時開講科目の専門科目「日本社会分析」の講義内容と関連させている。また現代日本社会の多様化を中心テーマにすえて編纂されている。
- 3) 設問の特徴：「読む前に考えましょう」で内容予測の質問が設けられている。「読みながら考えましょう」では内容理解の質問が主だが、筆者の意図を問う質問や、読者の感想・意見を求める質問も少し含まれる。

⑦ 「生きた素材で学ぶ中級から上級への日本語」

- 1) 構成：10ユニットからなる。「読む前に」で、本文を読む前の準備作業、動機づけのための質問が用意されている。「内容を確認しよう」では内容理解のための質問、「意見を述べよう」では意見を問う質問が設けられている。最後に「読んだ後で」で、ユニットのテーマに関連した読み、書き、調べ学習などの問いが設定されている。
- 2) 作成意図：学生が実生活において経験する可能性が高いコンテキストや言語活動をテーマに、学習者用に手を加えられていない生の素材を提供している。
- 3) 設問の特徴：本文の内容を紹介する一つの資料として提供されているため、設問はない。

4.3.3. 読解ストラテジー養成を目的とした教科書

⑧ 「中上級者のための速読の日本語」

- 1) 構成：3部構成で、1部が基本技術編、2部が実践編、3部が挑戦編となっており、3部に4編の短編小説がとりあげられている。
- 2) 作成意図：様々な文章を速く読む力を養成することがねらいとされている。
- 3) 設問の特徴：内容理解の質問が設けられている。

⑨ 「読解トレーニング」

- 1) 構成：4部構成で、全体で15課からなる。読解ストラテジーの種類別に章が構成されている。「この課の内容」でその課で学ぶストラテジーの大枠を理解し、「考えてみ

よう!!」でストラテジーを学習する。「試してみよう!!」で学んだストラテジーを実際に使って練習する。語彙リストは出版社のウェブサイトからダウンロードできる。

- 2) 作成意図：読解ストラテジーを身につけることを第一の目的としている。
- 3) 設問の特徴：読む前に本文に関連した経験を問う質問、その後内容理解の質問がある。

4.3.4. 読み物のおもしろさを味わうことを目的とした教科書

⑩ 「日本語を楽しく読む本・中上級」

- 1) 構成：8課からなる。各章の冒頭に本文に関連した情報と著者紹介、また既有知識を問う質問や、本文のタイトルから内容を推測する問いが設けられている。「読む前に」ではさらに本文に関する既有知識を整理・補強する質問が設けられている。「読む」では、内容理解のための質問があり、「もう一度」では、本文をさらに詳細に読み解くための質問が用意されている。最後に「読んだ後」で、本文の要約文を完成させたり、関連するトピックの文を読ませて比較させたり、学習者の経験に即して考えさせる、などのタスクが設けられている。
- 2) 作成意図：「読解活動とは自分自身の知識を活用しながらテキストの内容を効率的に再構築することである」という視点から編纂されている。また「教材は、課題を達成する、あるいは素材のおもしろさを味わうなどの経験の場を提供すべきである」という観点から、簡潔で論旨が明解な生教材を選定したとしている。
- 3) 設問の特徴：本文の前に、タイトルから推測される内容やイメージについての質問がある。「読む」では分割された本文を読み順番に並べ替える問題、結末を想像させる質問、考えを述べさせる質問などがある。「もう一度」では本文を詳細に読み解くための質問、「読んだ後」では約完成、表現の確認などの質問がある。

4.4. 設問の種類

表5は、上記10冊の教科書のうち、ストラテジー養成を目的とした2冊、および設問が設定されていない教科書3冊を除外した残りの5冊を対象に、設問の種類について分析した結果を示したものである。

表5 設問の種類

教科書	作品名	内容・理解	意見・感想	推測	経験・知識	調べ学習	計
文化 中上 級	大根	15 (100)	0	0	0	0	15
	天井裏	6 (75)	2 (25)	0	0	0	8
	雨傘	7 (77.8)	1 (11.1)	0	1 (11.1)	0	9
文化 上級	鞆	8 (80)	2 (20)	0	0	0	10
	わすれ傘	9 (81.8)	2 (18.2)	0	0	0	11
	鼻	10 (83.3)	2 (16.7)	0	0	0	12
	檸檬	11 (91.7)	1 (8.3)	0	0	0	12
招待	マリオネット	15 (83.3)	1 (5.6)	1 (5.6)	1 (5.6)	0	18
	食べられた男	7 (77.8)	1 (11.1)	1 (11.1)	0	0	9

挑戦	坊ちゃん	17.5 (51.5)	3 (8.8)	1 (2.9)	9 (28.8)	3 (8.8)	4
	キッチン	29 (70.7)	5 (11.6)	0	8 (19.5)	0	41
	高瀬舟	31 (72.1)	4.5 (10.5)	0	2.5 (5.8)	2 (4.7)	43
	塩狩峠	23 (71.9)	1 (3.1)	0	6 (18.8)	2 (6.3)	32
	伊豆の踊り子	28 (75.7)	2 (5.4)	0	6 (16.2)	1 (2.7)	37
	潮騒	23 (76.7)	0	0	7 (23.3)	0	30
	蜘蛛の糸	17.5 (62.5)	2.5 (8.9)	0	7 (25)	1 (3.6)	28
	少年H	24 (70.6)	2 (5.9)	1 (2.9)	6 (17.6)	1 (2.9)	34
	なめとこ山の熊	17 (54.8)	8 (25.8)	0	5 (16.1)	1 (3.2)	31
	肩の上の秘書	10 (52.6)	1 (15.3)	0	6 (31.6)	2 (10.5)	19
	A Day in the Life	16.5 (71.7)	1.5 (6.5)	0	3 (13)	2 (8.7)	23
楽しく	殺し屋ですよ	9 (52.9)	4 (23.5)	4 (23.5)	0	0	17

() 内の数字は、全体の設問数を 100 として計算した比率である。

分類にあたっては、二通 (2005) を参考にした。二通 (2005) は、読解教科書における質問や練習は、実際に学習者にどのような知識やスキルを求めているのか、という問いを立て、教科書の読解問題について調査分析を行った。二通は、Grellt (1981), Littlejohn (1998), Nutall (2000), および、香港の Chinese University の ELTU で開発された読解ストラテジーのリスト (Nunan, 1999, pp.265-266) などを参考に、留学生に必要と思われる読解の知識やスキルを抽出し、8 冊の中上級教科書を対象に、質問の種類について分析を行った。

二通は「言語面の知識」「内容の理解」「内容に関する感想や意見」「テキストの構造や展開」「テキストについての評価」の 5 カテゴリー、22 項目と詳細に分類しているが、本調査では、大きく「内容理解」「意見感想」「推測」「経験・知識」「調べ学習」の 5 つに大別した。

「内容理解」とは、本文に明示されている事柄を読み取る設問である。本文に明示されておらずとも、内容の理解を促す目的の設問はここに分類した。例としては、「このときの少年少女の動きからどんな気持ちがわかるか」(『雨傘』「文化中上級」) である。

「意見感想」は「内容理解」を促す質問で、本文に明示されていないが、本文に即して自分なりに想像・解釈させる質問である。上記の「内容理解」に分類したものより、社会的な事象・歴史的な理解等に関連させて答えるもので、例えば、読後のまとめの設問としての「『雨傘』というタイトルを考え、かさを中心とした二人の心の変化を述べよ」(『雨傘』「文化初中級」)、「タイトルの『天井裏』の意味は何だろうか」(『天井裏』「文化中上級」)、「ここでの『鞆』は青年にとって何を象徴しているだろうか」(『鞆』「文化上級」) という設問である。

「推測」は、本文の内容に関連して推測させる質問で、「読む前に考えましょう」などの事前作業の質問である。例としては、「『マリオネット・デイズ』という言葉から何をイメージしますか」(『マリオネット・デイズ』「招待」) など、本文を読む前にタイトルから想起することを問うた質問である。

「経験・知識」は、自分の経験・知識をもとに答えさせる質問である。例えば、「あな

たの国の始まりの季節は何月ですか（『マリオネット』「招待」）、「人が自殺をしようと思う理由にはどんなことが考えられますか」（『高瀬舟』「挑戦」）等である。なお、経験・知識をもとに意見を述べさせる問いもここに分類する。例えば「高い教育を受けることは、人生において成功することと関係があるでしょうか。」（『潮騒』「挑戦」）というような設問である。

「調べ学習」は、「調べてみよう」という文言が入っている設問で、作品のテーマに関する事柄や歴史的背景、作者などについて調べさせるタスクのことである。

なお一つの設問で2つの項目、例えば「内容理解」、「意見感想」を問うている場合は、それぞれを0.5として計算した。

表5の分類結果をまとめると、どの教科書も内容理解に関する質問が最も多い。また5冊中4冊の教科書では2番目に多いのが意見・感想を問う質問であるが、「挑戦」では、全11編中9編について経験・知識を問う質問が2番目に多くなっている。推測に関する質問は全体的に少ないが、「楽しく」では全体の質問数の23.5%を占めている。「調べ学習」をタスクとしているのは「挑戦」のみである。「文化中上級」「文化上級」に関しては、「雨傘」1作を除き、すべて内容理解、意見・感想を問う質問になっている。

5. まとめ

以上の分析から明らかになったことを整理する。

文学作品を扱っている教科書は総合教科書では11冊中3冊、読解教科書では13冊中7冊であった。そのうち文学作品を主たる教材として扱っている教科書は「挑戦」1冊のみである。文学作品の扱われ方を見ると、「招待」では、社会的現象や社会的問題を多様な角度からとらえた資料の一つとして文学作品が取り上げられている。一方、「挑戦」は歴史的・社会的な視点で読み解くという作成意図で文学作品が扱われている。また、読解ストラテジーの養成教科書では、いずれも星新一のショートショートが使われている。文字数が多すぎないこと、ストーリー展開が明解であること、結末に意外性があることなどが、速読力を養成する教材として選ばれた理由であると推測される。

設問の傾向について見ると、最も多く見られた質問は「内容理解」に関するものであった。本文を読み解く前に行う前作業での設問である「推測」が設けられているのは、「招待」「挑戦」「楽しく」の3冊、「経験・知識」を問う設問は、「文化中上級」「挑戦」の2冊、「調べ学習」は「挑戦」のみに設けられていた。設問分析の対象とした5冊の教科書のうち「挑戦」が最も設問のバラエティに富んでおり、「知識・経験」を問う質問が多いことも特徴的であった。また文学作品を扱っている教科書10冊のうち3冊は質問が設けられていなかった。

6. 考察

調査の結果を踏まえて、ここではクリティカル・リーディング能力養成という側面から、日本語中上級読解教科書における設問の重要性について考察したい。

二通（2005）は、これまでの日本語教育では主体的な「読み」の教育はあまり行われてこなかったことを指摘している。さらに教育における大きな課題の一つとして主体的

な読みの能力の育成をあげ、外からの知識や情報を自らの問題意識にもとづいて適切かつ有効に利用できるようなクリティカル・リーディング能力育成の必要性を指摘している。

こうした問題意識に立脚し、二通は、日本語の中上級読解教科書で使用されているテキストのタイプやテキストに関連する質問や練習について調査を行っている。調査の結果から、既存の読解教科書では、テキストに明示的に書かれていることを問うタイプの質問が最も出現率が高かったことを報告しており、主体的な「読み」を促す視点が欠けていることを指摘している。

今回の調査の結果、それぞれの教科書が様々な作成意図や工夫をもって編纂されていることは見えてきたが、二通の述べるクリティカル・リーディング力を養成するような質問は多くは見られなかった。設問のまったくない教科書、また上記のような設問を設けていない教科書も見られた。紙面の問題・構成面での整合性の問題等から制約が生まれているのかもしれない。また教科書の設問から使用する教員の授業の作り方を制限したくないという意図からかもしれない。しかしながら、例えば、読む前の前作業として、一問、タイトルからの推測を促すような設問を設ける、また事後の設問に、一問、読んだものを社会的・歴史的な文脈の中で捉えなおすような設問を設けることで、採用した本文をさらに多角的に読み解かせる方向性を提示できるように思われる。

例えば、「招待」の「マリオネット・デイズ」の「読む前に」で設けられている『「マリオネット・デイズ」という言葉から何をイメージしますか」という質問や、また「挑戦」の「キッチン」の「読む前に」で設けられている『「キッチン」と「台所」はどのように違いますか。そこは、家の中でどんな場所ですか。家族の中でだれがそこで過ごすことが多いですか。』というような質問である。また「挑戦」の「潮騒」のディスカッショントピックにあげられている「この作品には、教育の役割について、どのような価値観が現れていますか。あなたもそのような教育の価値観に賛成しますか。」というような質問である。

このように内容把握にとどまらない質問を設定することにより、多様な読みを体験させる機会を提供することができるだろう。またそのプロセスが、批判的思考の深化、クリティカル・リーディング力の促進につながるのではないだろうか。

クリティカル・リーディング力を促進するのに有効な設問、および文学作品の活用の仕方について今後さらに検討していきたい。

参考文献

- 池田庸子 (2005) 「日本語教育における文学教材—国語教育における文学教材論を参考に—」 茨城大学留学生センター紀要 3、25-34
- 池田庸子 (2006) 「上級日本語学習者のための読解教材—芥川龍之介『羅生門』教材化の観点—」 茨城大学留学生センター紀要 4、23-31
- 池田庸子 (2008) 「文学教材を用いた読解教材の試み—太宰治の『走れメロス』を読む—」 日本語教育方法研究会誌、vol.15 No.1
- 岡本佐智子 (1998) 「上級文章表現授業への試み—リーディング：一冊の長編小説を主教材として—」 日本語と日本語教 26 号、55-72

- 岡本佐智子 (1999) 「小説を主教材に使う—上級読解授業例—」月間日本語 1999 年 5 月号、
24
- 二通信子 (2005) 「日本語教科書ではどのような『読み』が求められているのか—読解教科書における質問の分析から—」門倉正美代表『日本留学試験とアカデミック・ジャニーズ (2)』平成 14～16 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (A) (1) 一般) 研究成果報告書、127-144
- 二通信子 (2006) 「アカデミックライディングにつながるリーディングの学習」『アカデミック・ジャパニーズの挑戦』ひつじ書房、99-113
- 半田淳子 (2000) 「敬語に関する調査と恋愛小説を教材とした敬語指導の試み」東京学芸大学紀要第 2 部人文科学第 51 集
- Grellet, F. (1981). *Developing reading skills*. Cambridge University Press.
- Littlejohn, A. (1998). The analysis of language teaching materials: Inside the Trojan horse. In B. Tomlinson (Ed.), *Materials development in language teaching* (pp.190-216). Cambridge:Cambridge University Press.
- Nunan, D. (1998). *The learner -centered curriculum*. Cambridge: Cambridge University Press
- Nuttall, C. (1996). *Teaching reading skills in a foreign language*. Oxford: Macmillan Publishers Limited.